

第137回 令和7年12月4日（木）

「歴史は偶然がカギを握る。」

日本と中国が緊張状態になっています。「台湾有事」に対する首相の発言が中国の逆鱗に触れたということですが、背景には米中の関係悪化があることは間違ひありません。

中国人の日本への渡航中止の勧告や、日本から中国に在留している日本人への注意勧告など、不安が高まるニュースが毎日流れます。

これを戦争につながる危険な兆候だとSNSで意見を述べる知識人もいますが、個人的にはそう思うのは過剰な反応かなと受け止めています。台湾有事が起きるかどうかは中国の政策如何なので何とも言えませんが、それによって米中が即戦争に突入し、日本も巻き込まれるというシナリオは最悪の事態を引き起こします。場合によっては人類滅亡につながります。

各国の政治家がそのような自明の理屈が分かっていて、その方法を選択するとは思えません。ただ歴史に残る戦争には偶然の衝突があることを忘れてはいけません。

1937年に日中全面戦争のきっかけとなった事件は中国郊外の盧溝橋という橋の近くで偶然訓練中の日中両軍が交戦状態になったことがきっかけです。お互い相手から弾が先に飛んできたと主張しています。

諸説ありますが、休憩を知らせに来た日本の司令官が味方の軍隊に誤って銃撃を受けたとも言われています。交戦が収まったのちに日本軍の新兵が1人行方不明になり問題となりました。この新兵は自分から軍隊を離れ、のちほど戻ってきたことが明らかになっています。

これが戦争のきっかけとなり、やがては1945年まで続く世界大戦の入り口となりました。歴史には振り返ると「なぜあんなことでこんな大きな事件につながってしまったのか」ということがしばしば見られます。

大国がギリギリの駆け引きをしてチキンレースをしているつもりでも、偶然がきっかけとなって引き金が引かれてしまうことが往々にして起こります。

そのような結果にならないためにも、両国の政治家には平和を最優先で外交を考えてほしいと思います。